企業訪問

資源循環レポート

（株）明輝クリーナー

人材の育成を柱に 産学共同プロジェクトを全面支援 明るく輝ける社会の創造を担う！

（株）明輝クリーナー

本社社屋

株式会社　明輝クリーナー

■代表者／小島　晃

■所在地／豊橋市若松町字中山１０１－３４

TEL 0532-25-1026　FAX 0532-25-1227

小島社長（右）と山田達也取締役（左）

昭和４７年塵芥処理業として開業し、創業４５年の歴史を持つ（株）明輝クリーナーは、地元での循環型社会の構築を目指し、産業廃棄物処理という側面から地域に貢献しています。

画期的な取組として、平成２１年に県内初のカーボンオフセット付サービスを開始しました。これにより同社のCO_2が４２％削減され、温暖化対策に大きく貢献したことが日本経済新聞に報道されました。技術革新が進む中、平成２９年1月２４日東京で開催された第一回ＥＳＪ（エコスタッフジャパン）アワードにて、最優秀賞に輝きました。受賞の選出基準は、研修会への参加、検定合格者数等であり、人材教育に注力する企業として明輝クリーナーが選ばれました。小島社長は、「業界の地位向上に伴う重責を担うのは人だ。業界全体で雇用確保が難しくなる中で、夢を描ける企業にするためには時間をかけて教育することが不可欠」と述べました。まさにその取組が社内で花開き、実を結ぼうとしています。

※「　」内は平成２９年2月１３日付週刊循環経済新聞引用

人材育成は時間をかけて磨くほど、まばゆく光輝く

小林友梨亜氏

ＥＳＪマネージャーとして小林友梨亜氏を立て、業務における様々なシステムの改革を行いました。日々の朝礼においては、挨拶の唱和、報連相、体調管理等を行い、安全衛生にも配慮した細やかな対

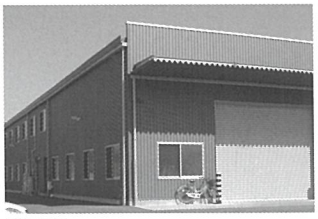
応が行われています。また年一回、個人目標を定めスキルアップを行い、セールス検定は全社員の３割、ドライバー検定は全ドライバーが資格取得を達成しています。中には、難関といわれる国家資格を取得した者を輩出するという偉業を成し得、育成支援は仕事を通じて各自の夢に近づいていく取組でもあります。

循環型社会における堆肥の役割

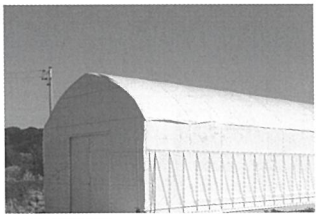
廃棄物から生成された堆肥を生かし、広大な土地で多くの農産物を生産しています。畑ではキャベツや青ねぎを作り、需要の高い青ねぎは四毛作で収穫しています。選果場に集められた野菜は農業大学校出身のプロ社員の指導の下、厳選された成果物のみ箱詰めされ、最盛期には一箱１０kgの青ねぎが一日１５０箱出荷されます。また全国からの注文に対応するべく、大型冷蔵庫を選果場横に増設し、万全の体制を整え産地直送の新鮮野菜をお届けする意気込みを感じました。

優れた成果物を生産するためにも堆肥に工夫を凝らし研究を重ね、実験農場では育成過程における状況をつぶさに観察しています。

広大なねぎ畑


選果場

ねぎの選別


大型冷蔵庫

成果物の責任者 加藤ちひろ氏と小島社長

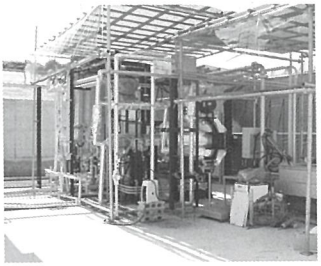
バイオマス事業の継承を大学研究室と共に歩む

国が推進する「バイオマス・CO_2・熱有効利用拠点の構築」は、平成２８年３月に実証試験は終了しましたが、明輝クリーナーでは現在そのまま機材を活用しバイオマスのシステムを運用しています。機材の保守、実験は豊橋技術科学大学の研究員が担当し、明輝クリーナーの担当者と共に自然エネルギーの活用について、新たな展開を構築しております。現在廃棄物を発酵させたバイオガスは発電、CO_2は温風として隣接するハウスに送られ、実験用トマトの育成に利用されています。また生成された堆肥は農産物の肥料として活用され、野菜の形、色、甘み、への影響等、細かくチェックされています。

バイオマス事業は温室効果ガスの抑制、再生可能なエネルギーとして注目を集めましたが、本格的に始動をするためにはコスト面において負担を強いられます。小島社長は産廃業者としての熱い思いから、事業として発展していくための企業努力を今後も続けられるとのことでした。

小島社長は、この地方における地の利を生かした地産地消を目指し、数々の取組にチャレンジされ、いち早く人材の教育に力を注いだ成果が今、社名のごとく明るく光輝いております。

メタン発酵装置


水熱反応装置

堆肥の生成機